

ふれあい新聞

(第31号) 平成6年7月1日 (田中野田町内会)



体協だより

御南学区体育協会設立総会閉く

横野 良典

去る平成6年5月28日(土)御南小学校多目的教室において、御南学区体育協会設立総会が開かれ、第一代会長に野上和夫(久米)さんがなられました。田中野田より、総務に横野良典、監事に和気茂さん、代表理事に中尾信夫さんがなられました。また長年にわたり田中本村といっしょにやって参りましたが、体協も御南小学校分離と同時に独立致しました。今後とも今まで以上にご協力をよろしくお願い致します。

また事業計画は次の通りです。

- 6月26日 第一回御南学区バレーボール大会 御南小体育館
- 8月28日 第一回御南学区ソフトボール大会 御南小グラウンド
- 9月25日 第一回御南学区民体育祭 御南小グラウンド
- 10月30日 御南学区卓球大会 御南小体育館
- 11月13日 岡山市民体育祭 県営グラウンド
- 11月27日 第一回御南学区グラウンドゴルフ大会 御南小

以上の事業が予定されております。我と思ふ人は、どんどん参加をお待ちしております。

なお、体協専門部活動として次のクラブもございます。

- 卓球教室(児童) 卓球同好会(大人) 婦人バレーボール 剣道スポーツ少年団 岡山西ミニバスケットボールクラブ バドミントン同好会 空手同好会(児童)

以上でございますが、希望の方はお近くの体協役員へ申し込んでください。くわしくは横野まで。

なお、前記以外の役員は次の通りです。

野田理事

- 白石 晴通 和気 健 安本 末広 福富 勉 大森 仁一
- 応江 一郎 光信 秀雄 香山 寛 和気 芳夫 白石 誠
- 高橋 健策 相賀 望弘 原 久昭

地域づくりの最初の一步

和気 健

十余年に亘る懸案事項であった西小学校の分離問題がやっとの思いで解決しました。我が町内は、新しい御南小学校へ行くことになりましたが、今小学校から西小学校へ、そして今回であります。この歴史の流れは、地域の分化発展の過程で避けることができない当然のことではありますが、昔を知る者にとっては様々な思いがあろうかと思ひます。

いずれにしても、平成6年度は当町内の住民にとって、歴史に残る素晴らしい思い出の年にしたいものです。またこの新しい御南小学校のスタートに当たり、この地域が住みよい所であり、誇りを持ち得るような魅力溢れる地域づくりのスタートになることを願ひ、具体的な提案をすると同時に、何らかの形で役立てばと思ひている所であります。

さて、地域づくりは、その地域の持つ特有の資源と特性を生かしたものであることが重要であり、成功する秘訣であると言われております。

従って、先ずこの地域特有の資源と特性を捜し出すことから始めるべきであります。私は、この学区の大きな特色は、学区を二分する形で笹が瀬川があり、しかも学区を構成する地域がそれぞれに、この川に接していることからして、この笹が瀬川を地域づくりの中心に据えて進めるべきと考えています。

そして、この川は殆ど未整備であるため、豊かな自然と多くの緑を残した水辺のオープンペースとなっており、地域住民にとって、ゆとりとやすらぎを与えている貴重な資源であると思ひます。従って、この川の整備を進めるに当たっては、この貴重な資源を守り、更に磨きをかけるような配慮が不可欠となりましょう。

また、この川は桃太郎伝説の川として文化性もあり、水辺空間を生かした様々なイベントを開催するのにも、都合のよい整備計画であるべきであると思ひます。

以下、このようなことを考えながら、具体的な事柄を、夢を加え思いつくままに挙げてみたいと思ひます。

- 1、水辺の多種、多様で豊かな動・植物が棲み分けることができるような多孔質な構造にして、その保存と保護に最大の工夫を払い、水辺の自然観察教室の開催を意識した計画にする。
- 2、操車場跡地の利用で、一時計画されたことがあったカヌー公園とし



現在の笹が瀬川

て整備する。即ち子供のいかだ遊びから、カヌーの大会の開催をもできるような施設を造る。

3、堤防に桜を植栽し、桜でいっぱいになった笹が瀬川を目標にして、将来的には桜祭りができるようにする。

4、夏には、納涼花火大会ができるような広場を設ける。

5、川沿いに川が眺められるような高さをもった拠点文化施設(公民館のようなものでも博物館のようなものでもよい)を設け、水辺の自然観察教室等のイベントの開催拠点として利用すると共に、水辺レストランを設置する等などが考えられます。

実現がやや困難なものから、地域住民の地域づくりに対する少しの熱意があれば、簡単に実現できるものまであります。いずれにしても行政任せにすることなく、地域づくりの主体は住民自身であるという認識をもち積極的に行政施策に参画し、意見を述べる必要があるとあります。

同時に草刈などの維持管理については、住民自らがこれらの役割を担わなければならないのは、当然のことといえるでしょう。

最後に、前記に挙げた夢の実現に向けて、住民一人一人の協力の輪を広げ、地域全体に広げていけたらと思ひますが、最初の一步として、堤防のごみ拾いから始めたらどうかと考えているところであります。

(このことについて、ご意見を聞かせて頂ければ幸であります)

